



宮崎大学附属図書館本館展示ブース完成記念

みろく すけのり
弥勒祐徳氏寄贈絵画展

日時: 2023年6月1日(木)~6月15日(木)

場所: 宮崎大学附属図書館本館1階ホール

オープニングセレモニー: 2023年6月1日(木)14:00~14:30



ご寄贈いただいた11点の作品

出典:弥勒祐徳作品集10号下巻 2021年10月



令和5年4月25日(火)に、宮崎県西都市在住の画家である弥勒祐徳(みろくすけのり)氏より、旧宮崎大学教育学部棟(船塚キャンパス)を描いた11枚の絵画を本学へご寄贈いただきました。

6月1日から15日まで、ご寄贈いただいた作品と弥勒祐徳氏によるご著書を紹介する「弥勒祐徳氏寄贈絵画展」を開催いたします。



方言丸出しの芸術家

宮崎大学教育学部は、かつて宮崎市船塚一丁目にあった。跡地には宮崎公立大学が設置された。
「木造二階建てが六棟。両側からつかえ棒をした、オンボロ校舎でしたな」

弥勒先生は、一九八〇年から同学部の非常勤講師を務めた。当時、教授だった美術評論家・中村義一さんの依頼だった。中村さんは、弥勒先生を最も評価した一人である。一九八三年一月三十一日の宮崎日日新聞「美術時評」には以下のように書いている。
——この画家をムンクに代表されるような「狂気の画家」として位置づけようとする人がいるが、彼がしばしば描く木喰仏のように、素朴で健全な弥勒の芸術は、ムンクその他の近ごろはやりの暗く病的な世紀末芸術とは、あまらかに異質である。狂気どころか、彼こそ「正気の画家」というべきだと思うのだ——

小学校の教諭を目指す学生たちを相手に、弥勒先生は週に一度教壇に立った。
「学生さんが、言葉が理解できんちゅうてよ」
弥勒先生は、いつものように絵具にまみれた服を着、髪はボサボサである。三桁丸出しの語り口は、県内出身者にも分かりにくかった。県外からの学生はなおさらである。先生は講義内容を律儀にプリントし、毎回学生たちに配った。

を赤く染めて……。いかにもモダンな芸術家に見えましたね。でも、口から出てくる言葉がアレで、全く理解できなくて……」
石川千佳子(現・助教)は、宮大に着任したばかり。宮城県出身の石川さんにとっては、弥勒先生の三納弁は外国語にも等しかったろう。

一九八七年、宮大教育学部は現在の木花キャンパスに移転した。移転話を聞いた弥勒先生は校舎をスケッチした。

「この卒業生ではないが、教鞭を執ったのも何かの縁。外見だけでん、残しておきたいですな」
言葉は聞き取れずとも、心は通じていたのだろう。スケッチには、毎回五、六人の学生が同行した。時は移り、壊された旧校舎は忘れられた。流れ行く時をとどめた弥勒先生の絵は、そこに染み着いた人々の喜怒哀楽までも映し出している。

出典：弥勒先生…小伝／井口幸久著
西日本新聞社 2006



お問い合わせ: 宮崎大学附属図書館本館利用係
TEL: (0985)58-7147
会場: 月～金曜日 8:40-21:00 土日:9:00-17:00
※お問い合わせは平日17:00まで

